

区民および区職員の意見概要



1 たたき台に対する区民の意見

2004（平成16）年3月10日、検討会議では、区民環境行動方針のたたき台を公表し、同日から23日まで区民の意見や提案を求めました。また、3月14日には、たたき台の説明会を開催しました（123ページ）。寄せられた区民意見等の概要は、以下のとおりです。

なお、これらの意見については、各分科会および調整会議で検討を加え、可能なものについてはたたき台を修正し、区民環境行動方針原案としています。

（1）たたき台全体に対する意見

たたき台の文章、構成などについて

文章が長い

- ・各章、ページ数が多すぎる。区民に広げるためにはボリュームを抑えるべき。
- ・全体に分量が分厚いのではないか。「たたき台」という性格からやむを得ないのかも知れないが、124ページという分量は、区民の方々に読んでもらうにはボリュームがありすぎる。一般には「概要版」を配布するとはいえ、全体としてもう少しスリムにする必要があるのではないか。
- ・分量が多すぎて、読むのに苦労する。
- ・「現状と課題」の部分が長過ぎるのではないか。あくまでもメインは、区民、事業者、行政の三者が協働ですすめるプロジェクトであると思う。ところが、肝心のプロジェクトに割く分量に対し、「現状と課題」の部分が長過ぎるように思う。もう少し簡潔にしたらどうか。
- ・小学校4年生くらいの小さい人も骨子が分かるようなものにまとめられないだろうか。

書式（フォーマット）を統一すべき

- ・フォーマットを統一すべきではないか。今回は分科会別につくったたたき台を全体会で調整する時間が十分なかったためか、章ごとのフォーマットの統一がとれていないのではないかという印象を受ける。現状と課題 取り組みの方針 プロジェクト案 プロジェクト案を実行するための各主体の役割分担など、もう少しフォーマットを統一すべきではないでしょうか。

- ・分野ごとにまとめ方が違うので、統一感がない感じがする。
- ・5つの分科会の各章内の構成は、現状と課題 取り組みの基本方針(理念) 提案するプロジェクトの3点が示されているが、章ごとに異なっている。基本方針(理念)を定めることが先であるので、これを とし、現状と課題は とする順序に変更する必要がある。また、項目も統一する。

テーマ間の調整をすべき

- ・第2章まち環境のみどり・公園・農業にも、自然環境の事項が掲載されている。「自然環境」と「まち環境」の分担・境界について検討するべき。

書き込みが足りない部分がある

- ・とてもよくまとまっているが、自然環境の部分がもの足りないし、総花的。
- ・練馬区民環境行動方針の作成にあたり、方針(理念・目的など)が書かれていない。盛り込む必要がある。

今後の取組みについて

プロジェクトを絞り込むべき

- ・プロジェクトを絞り込むべき。プロジェクト案が盛りだくさんだが、今後の話し合いの中で、すぐにでも実行に移すことのできるプロジェクトに絞り込むべきではないか。全部で30もあれば十分だろう(それでも多すぎるか?)。
- ・5つの分科会から130余りのプロジェクト案が出ているが、この中で関連するものは合体させて絞っていくのかどうかの問題があると思う。

より多くの区民を巻き込むためのシステムづくりを進めるべき

- ・たたき台は関係者の方々の熱心な活動の初版として記事の内容・編集等、良くできている。更に多くの区民が日常生活の中で容易に参加出来るような行動要領づくりやシステムが必要だと思う。直接活動には参加していないが、今回の参加を通じて環境問題が具体化されていることに驚いている。たいへんなことだが、少しずつでも実行して欲しい。
- ・「たたき台」の青写真には住民としての夢を与えてくれるものが多く、参加に協力できればと思ったものが多くあった。本当に実践可能なプロジェクトに絞り込んでいく作業は難しい課題だと思う。できればそのプロセスに関わる情報を共有して、共に考え進めていけるような住民参加のシステムを作って欲しい。
- ・もっと区民を巻き込むような運動として高めていかなければごみも減らないし、環境も良くなるのではないかと。無関心層をいかに掘り出していくかが今後の課題になると思う。行動方針を生かしていくために、力を合わせて実行に移していくことが急務であると思う。
- ・この行動方針をどのように活用していくのか。無関心な区民をプロジェクトに巻き込むための工夫をして欲しい。今回の活動を継続して欲しい。
- ・別の意欲的な先進自治体でみたアジェンダは、2050年、2100年のあるべき姿を思い描くところから開始し、そこに至る道筋をステップ論で埋めていく、いわばバックキャストという手法だ。ただあまりにも現実から離れてしまっているものもあり、いざ自分が何をしたらよいか、という行動計画に結びつきにくい面もある。トップダウンとボトムアップ、どちらも一長一短だが、せつかく自分たちで出来ることの数々に基づいてポ

トムアップ型の充実した基礎固めが出来たので、これら逐次実行に移していきつつ、次の大きな行動の優先順位を決めていくためにも、将来的にどうなるための施策なのか、と未来に思いを馳せる機会をぜひ一度作れたら良いと思う。

- ・一人でも多くの区民に参加してもらえるように考えていくプロジェクトが作れたらよい。

実行に移すことが重要

- ・これがスタートで小さな事からでも実行がなければ作文に終わってしまう。実行あるのみ。
- ・環境問題をもっと深刻に考えて実行に移して欲しい。
- ・計画や方針は作って終わり、特にその過程で全精力を傾けてしまうとそこで息切れしてしまい、しばらくリハビリが必要と言うことが多いので、それはそれで休憩してから、テーマも多いので一度集合して後離散して個々に基礎固めをしたと聞いたので、これからの実行段階にはもう一度集合して、現状ではやはり限られてしまう資源とパワーを統合して、実効ある行動につながればと思う。

楽しく取り組んで欲しい

- ・「一部の人達による作業」に終わらないようにする。特に自然体験は「やってみた」で終わらず、「何度でも」「継続して」行うことが大切だ。そういった意味で実際の展開時には楽しくお祭りの行っていて欲しい。楽しかったから「友達と家族と」行こうと言うような雰囲気にして欲しい。そうしたことが広がりとなり、具体的な実践行動になる。身近な自然環境を知ることを認識することは楽しいことだ。

環境行動が進まない要因について整理すべき

- ・環境に配慮したまちづくりには、様々な正しい情報を区民が入手し、総合的に判断できる力をつけることが欠かせない。ところが、環境問題に対する区民の意識が行動を生み出すまでに高まっていない。これが具体的に活動をしていく上で予想される大きな壁と考えられる。意識と行動との大きな隔たりを少しでも縮める事が、これからの具体的なプロジェクト推進上での大きな課題である。これを解決することなしには1を教えて10を知るようにはならないのでは。少なくともこの原因は何であるかをはっきりさせ、それを検討委員での共通認識としてそれを明記したほうがよいと思われる。

行政の条例・計画等との関係を明確にし、施策との調整を図るべき

- ・環境基本計画との関係を明確にすべき。練馬区環境基本計画（行政計画）と今回の「区民環境行動方針」とがどのような関係にあるのか、両者がどのようなかたちで「両輪」となって、練馬区の環境を良くしていくための力になるのかが十分明確ではない。この点をすっきりさせるべき。豊中市（豊中アジェンダ 21）や長野市（アジェンダ 21 ながの）などが参考になる。
- ・環境基本条例の制定を検討すべき。環境基本計画や環境行動方針を根拠づけると同時に、行動方針推進のためのパートナーシップ構築のための区の支援等を明確にするためにも、環境基本条例を区民参加で制定すべき。
- ・区で環境活動団体紹介制度をもっているが、エコアドバイザーを中心とした狭い範囲のはたらきかけが中心で、ほとんど知られていない。もっと間口を広げ、教育委員会と連動して上記のような実働部隊となりえる魅力的な仕組みにしていてもらいたいと思う。

推進体制、支援体制について

行動方針の推進組織、支援体制を整えるべき

- ・環境行動方針の中の提案を効果的に実現していくためには、熱意が冷めないうちに委員を中心とした推進組織の早期立ち上げが欠かせないが、委員の多くはいわば素人のボランティアでの参加のため、教育や商業・農業・建築などの専門家も加えた民産学官協働の推進組織を早期に立ち上げ、それをサポートできる体制を整えていく必要がある。
- ・取り組みの普及や浸透、継続のあの手この手の調査研究、情報提供など、縦横の支援が用意されれば活動しやすいのでは。
- ・プロジェクトの推進体制を明確にすべきではないか。区民環境行動方針が策定された後、ではどうやってプロジェクトを推進していくのか、プロジェクトの進行管理をどこが実施していくのかの記述がない。検討会議を母体にして、今度は推進のための環境パートナーシップ組織を立ち上げるのか、それとも既に活動している市民団体や地縁組織等を母体にしてプロジェクト別のネットワーク体制をつくっていくのかなど、明確に書き込むべきであろう。

広報活動を強化すべき

- ・結局発表会に参集したのはメンバー以外には15名あまりだったとのことで、当日も広報活動への苦言も出ていたが、67万人区民からすると途方に暮れる人数だ。情報を伝えたターゲットを設定し適したメディアや媒体を活用して、効果的な広報施策を行うこと、そして結果として効果測定をきちんと行い次の施策につなげていくことが大切。

その他

- ・発表も含め素晴らしいものだった。全体として、自分たちが出来ることをあげておこう、という合意がメンバー間で徹底できていて、行政への陳情やお願いではなく、ボトムアップ型の提案や意見として具体的に書かれている行動方針になっていると思った。
- ・検討委員の「生の意見」があまり見えない。
- ・たたき台の中に区の環境保全課が認可したNPOのみをのせるのではなく、大きな視点で都や国から認可を受けて活動している団体をのせる。

区に対する意見

- ・区はこの関連でどのくらいの行動予算を考えているのか。財源等を含めこれらを明確にしないで報告書をまとめるべきではない。一年間やってみて現実が見えないのは行動方針をサポートする担当者が区民ではないからではないか。
- ・区の現在と姿勢と対応が改まらない限り、環境行動方針の前進も期待できないのではないか。区長を中心に区が一丸となった推進支援体制づくりが不可欠だと思われる。

(2) まえがきに対する意見

- ・たたき台の冒頭で、区民環境行動方針づくりの意味と進め方、として書かれている中に、この間の意義として、各主体が一緒になって取り組む「きっかけ」になったこと、合意を作り上げていく過程を「体験」出来たこと、そして産官民の「協働」を実感できたこ

と、以上3点が挙がっている。実際に参加することは出来なかったが、臨場感と共に伝わってきた。そこに1点付け加えたら良いと思ったことは、共通の理解としてきたこととして、自分たちが出来ることを挙げるほかに、「環境」を広義に捉えたことも追記したらどうか。今後こうして広げた風呂敷を徐々にたたんでいくステップでそのプロセスづくりが重要になってくると思う。

(3) 第1章「自然環境」に関する意見

行政の計画・施策等との関わりについて

- ・練馬区みどりの計画に書かれている、基本方針、施策、各種の現況、区の目標などについての形跡が分からない
- ・(プロジェクトの)各項目とも、前から言われてきたもので、それを区民がやるべき部分と行政がやるべき部分がはっきりしていない。

文言について

- ・緑被率について、比率と経年変化図表を掲載してあるが、実数の記述がない。
- ・「白子川と石神井川」、「石神井川と白子川」の二通りの記述がある。
- ・文章、用語が統一されていない。
- ・「人、事業者、行政の」「区民、事業者、行政の」の2種類の記述がある。「区民・事業者・区」に統一し、役割は、責務とする。
- ・「湧水が多く場所から湧いている」と“湧”がだぶっている。

基本的考え方、取組み方針等について

- ・3 取組みの方針について、方針についての記述ではなく、「取組みの視点」となっていて、方針が明示されていない。項目の通り、方針を明示して、取組みを明確にすべき。
- ・視点2「区民・事業者・行政の役割を考え・・・」とあるが、役割では軽い。責務にすべき。
- ・(2) 取組みの基本的方向と4具体的な取組みに大きな相違が見あたらない。修正すべき。
- ・石神井川には鯉が放流されているなど、外来種対策が全くされていない。取組みの方針の中に、「生き物が自ら生息できる環境作りを進める」とあるが、どのような生物を念頭においているのか。生物多様性の保全という観点からの目標がはっきりしない。

現状と課題について

- ・「練馬区の自然環境の現状」は緑被率が強調されているように思われ、それ以外の農地、公園、その他が緑被率に比べて少ないように思われる。他も記載すべき。

具体的取組み(プロジェクト)について

全体、考え方について

- ・16 のプロジェクトは、環境心理学の科学的知見として、昔あった姿に戻す（修復する）ことは評価が高く、政策も進めやすくなるそうで、その意味でも理にかなった提案になっている。
- ・16 項目について具体的な取り組みとしては不十分だと思う。「検討します」「提案します」「検討し、提案します」とあるが具体性にかけている。実行可能な事項について具体的に記述する。
 - 例：ソーラーハウス、風力発電、雨水の活用を推進（推奨）します。
 - 一家に一本及び、区民一人一人が一本植樹をし、68 万本の植樹を実施します。
 - 各家庭のブロック塀を生け垣に推進します。
- ・「具体的取り組み」で、区民と事業者・行政でやることが少なく、区民がやることが多いが、現実にはそれほど暇があると思えない。
- ・検討委員たちが、区民とどのようにすればうまく行動していけるのかがわからない。
- ・自然環境の重要性について、もっと一般区民や事業者に把握してもらいたいような書き方が欠けていると思う。

個別プロジェクトについて

（1）区民が主体となった区内の自然環境調査の実施

- ・区民が主体となって自然環境調査を実施するのはよいが、一斉調査が何を意図しているのかよく分からない。
- ・調査計画の前に、まず区内の実情を把握するために植物相、動物相の調査が最優先で必要である。その上で、どの種を自然指標とするかを決定すべきである。

（2）白子川の湧水と水辺を楽しむプロジェクト

- ・「白子川の湧き水と水辺を楽しむプロジェクト」と「石神井川を出来るだけ自然に近い形にし水辺を楽しむプロジェクト」は合わせたらどうか。
- ・子供達が水遊びを楽しみ、水棲生物とのふれあいや観察を進めるためにも白子川流域の湧水を利用して、井の頭公園のような親水公園を随所につくれないかどうかの調査はどうか。川底の両岸に、植生があると潤いが違う。魚礁にもなるので、散歩道がある所を中心に検討して欲しい。

（3）石神井池・三宝寺池・富士見池の再生（リニューアル）プロジェクト

- ・「石神井川・三宝寺池・富士見池の再生（リニューアル）プロジェクト」3000tの水の活用について？
- ・P15(6)の池さらいについて、池底の生物調査は本格的にされているのか。水が汚れているからきれいにするという単純な発想としたらどうかと思う。

（4）樹林地の住民管理

- ・「樹林地の住民管理」所有者の意志はどうなっているか？住民管理の拡充とあるが厳しいと思う。

（5）学校を中心とするビオトープづくりと管理

- ・「学校の児童を中心とするビオトープづくりと管理」学校が主体でやるのか？
- ・ビオトープを造る前に、どのような生物が棲む場所にするか目標を立て、造った後は

目標とした生物がうまく生育できているかのモニターリングと、状態を維持・管理する継続的な作業が必要である。

- ・学校のビオトープには雨水利用がいいのでは。「天水尊」を全校に設置することで、花や植木に水をやるにも、節水の学習ができるし、災害時には役にも立つ。

(6) 参加型農業の推進

- ・「参加型農業の推進」農園の増加が可能か。
- ・種まきや収穫などの地域農業に学校ぐるみで子供も参加し、農家との交流を通じ、食べることの大切さを学ぶ機会にしてはどうだろうか。またお年よりや地域の方達と一緒に収穫祭を開いたら良いのでは。

(7) 落ち葉や生ごみの堆肥化と農家への供給

- ・「落ち葉や生ごみの堆肥化と農家への供給」良好な堆肥化と、農家向け入の可能性は？

(8) 屋上・壁面・駐車場の緑化

- ・「屋上・壁面・駐車場の緑化」家に一本の植樹とブロック塀を生け垣にすることも重要。
- ・屋上・壁面緑化を進めるのは大賛成。但し、施工方法は、維持費がかからない、メンテナンスが簡単なもので、環境へ影響を配慮したものがよい。
- ・屋上緑化に関して、セダムが挙げられているが、セダムのような CAM 植物は陽光が強いと気孔を閉じてしまいヒートアイランド対策には不向きという見解もあり、またわざわざ外来種を用いる事も好ましくなく、公共及びそれに準じる施設の緑化には、在来種を用いる事を原則とすべきである。
- ・p16(11)屋上緑化について、これが「農地の減少を補う」という表現では次元が違うと思う。屋上緑化は賛成としても、セダムは生態系に悪影響を及ぼす懸念があるため、植栽として適さないと思う。

(9) 商店街(通り)の緑化

- ・「商店街の緑化」全区民が対象、一般の住宅地・通りは？
- ・プランターの緑化には、プランターの材質や色などが景観を壊さないものを選び、育てやすく見栄えの良いものを選ぶ。

(10) 公園・児童遊園づくりへの住民参加と住民管理の拡充

- ・「公園・児童遊園づくりへの住民参加と住民管理の拡充」一人あたりの6m²目標達成を掲げる。

(11) 新たな緑化指標と目標値の設定

- ・「新たな緑化指標と目標値の設定」現在の目標の達成との関連は？
- ・“区民みどり率”の創設に賛成である。多くの区民がうるおいや美しい街並み、環境を望んでおり、緑がどれだけあるかは、大きな要因となる。緑が多い美しい街になれば、その街を好きになり、大切にし、ごみのポイ捨てもしないのではないか。
- ・“区民みどり率”が、30年後に40%という目標値はどのような理由で設定されたのか分からない。

(1 2) 土や地面の保全活用

- ・「土や地面の保全活用」特に、農地の獲得の重視、街路樹の整備、一家に一本植樹とブロック塀を生け垣に。

区民からのその他の提案

緑化方策について

- ・狭い道を一方通行にして、歩行者や乳母車、車椅子の人が安心して通れる歩道を設け、並木を植える。
- ・校庭や公園を原っぱにする。芝生だけでなく雑草でもよい。生態系を守ることにもつながる。
- ・緑豊かな癒し効果の高い木々と、貴重な畑をこれ以上減らさない。木を切って建て売り住宅や高層集合住宅にするのではなく、木を残して代替え地に住居を移してもらえるようにする。
- ・みどり基金を作って木を残しながら自然とふれあえる遊び場や公園を作る。

景観規制について

- ・街自体の広がりを目指すため、道路沿いでも5階までの高さ制限をする。

(4) 第 2 章 「まち環境」に関する意見

目指す「まち環境」の方向について

- ・エゴタウンのエゴとは何か。ある見方からすると、エゴこそ日本人に欠けている、エゴがないから個人主義が育たないといえる。そういう解釈をすればエゴは少なくとも悪いものではない。単純に、みなでつくろうエコタウンではいけないのか。
- ・「エゴタウン」とはどこにあるのか？江古田か？このような言葉は使わない方がよい。説明を要する言葉はキャッチフレーズには不適だ。

具体的取り組み（プロジェクト）について

道路・交通について

- ・自転車のマナーが悪い区民が多いときくが、それを環境問題として区民に周知するには、客観的な裏付けがなければ納得されないのではないかと。
- ・放置自転車問題を解決するため、モデル的に、朝駅の前で自転車を預かり、駐輪場に入れてあげる人がいたらどうか。手数料として100円貰い、番号を渡して受け取る時にあわせるなど、工夫したらいいのでは。どこかの駅でモデル的にやってみてはどうだろうか。

環境美化について

- ・犬の糞尿問題は深刻だと思う。飼い主に忠告しているという見解だが、非常識な飼い主が多すぎる。以下のことを提案する。

犬頭税の徴収 年間12,000円 / 1頭

登録制を採用する

犬専用共同便所を設置

- ・ポイ捨て防止には、条例を發布し路上たばこを禁止するべき。ペナルティ制の採用が必要。
- ・私鉄の駅が全面禁煙になったことは効果があった。公共の場からたばこを無くして欲しい。
- ・落ち葉の中に吸い殻が多数うもれている状態は防災予防の面からも悪いと思うので検討して欲しい。
- ・放置自転車の問題や、ごみの不法投棄の問題を解決するために、まちを循環する専用人を置くことが必要である。専用人は、春は除草の手入れ、樹木の剪定をし、夏には害虫駆除や野鳥の糞の始末、秋には落ち葉の掃除、そして冬には小枝の始末、ごみの掃除をする。
- ・ごみ集積所の周囲は散らかって汚くなったり、ポイ捨てなどの多発場所になるので、防災・防犯の予防として、夜遅く又は早朝に収集車を出し、優しい音楽を鳴らしてみてもどうか。

農業について

- ・農作業支援は良い。販売支援の一つとして、畑には野菜スタンドがあるが、駅の近くにもあれば、他区からも買いにきてもらえるし、通勤の人も利用できる。空き店舗を利用して野菜の直販を試みてはどうだろうか。取り立て野菜そのものや、野菜料理の試食もできると良いのでは。

商店街について

- ・行政から支援を受ける、住民から盛り上げてもらうというような受け身な姿勢ではなく、自発的に当事者意識を持って地域への貢献アイデアを打ち出し、積極的に情報発信を地道に続けていくことしかないと思う。
- ・エコマネー、特にクーポン券のように換金価値を伴うものは、これまでの各地の導入で成功事例はないので、採用の必要はないと思う。

区民からのその他の提案（コミュニティについて）

- ・コミュニティの喪失を問題視する区民の割合はどのくらいなのか。そもそも、コミュニティという言葉の定義すら見当たらない。向こう三軒両隣、長屋のように隣の暮らしぶりがわかるような住まい方を「是」とする人・しない人、練馬に長く住んでいる人、長く住むつもりのない人によって、コミュニティについての考えは千差万別だろう。

(5) 第3章「ごみと資源」に関する意見

現状と課題について

- ・課題の捉え方にごみ処理による環境汚染の視点が抜け落ちていると思う。この視点は、処理場がどこかに作られるようになった、また廃プラの処理のために新しい清掃工場を作ろうなどという時に重要である。有害物質の部会とも一緒に適切な分析が必要だと思う。

取組み方針について

- ・情報の発信については、区民の啓発あるいは情報提供はすでに分別などある程度できている層により理解を深めてもらうのか、できていない層の底上げを図るのか、この目的の置き方をきちんと定める必要がある。

具体的取り組み（プロジェクト）について

- ・提案内容には賛成。発生抑制のための提案や生ごみや落ち葉のリサイクルシステムなどぜひ進めてほしい。
- ・生ごみ堆肥と農家の肥料の結びつけは、練馬らしいプロジェクト提案。課題は生ごみの集め方と量に絞られるので、提案されている話し合いの場ではここを重点としてビジネスモデルを構築できたらいいと思う。
- ・分別の逆引き辞典は、ボトムアップ型の有効な取り組みになると思う。
- ・23区が決めている可燃ごみ（燃やせるごみ）・不燃ごみ（燃やせないごみ）の分別内容の検証をしてほしい。
- ・「環境センター」、「リサイクルセンター。環境学習室」は、既存又は計画中のリサイクルセンター、特に春日町リサイクルセンターとの違いは何か。違うとすればはっきりさせないと誤解を招くと思われる。

区民からのその他の提案（分別、数値目標、理念等）

- ・一般家庭ごみの分別項目は今は3～4種類だが、それを更に分別をすると20～23の分別が必要になる。それらが資源になるまでには莫大な費用や設備が必要になる。
- ・プラスチックでできた生理用品・紙おむつの問題は、衛生面も考慮しなければならない。
- ・有害と思われるもの（ガスボンベ・蛍光管・家庭用殺虫剤等の農薬・混ぜるの危険と書かれた洗剤など）を一般のごみと一緒に集めているのは問題である。その点への見解も明らかにすべき。
- ・ごみはリサイクルの前に減らす工夫が必要なことは、周知されてきている。そこで、減らす具体的な目標数値を立てるのがよい。例えば「一人一日100g減らそう」。そうすれば、経費やCO₂がこれだけ減らせると明確に知らせることができる。
- ・自らが実行できるようにしてほしい。自分たちで清掃や分別を実践するべきだと思う。そしてそれだけの費用等の枠を設けて欲しい。
- ・練馬区のリサイクル推進条例を再度読んでほしい。“焼却や埋め立てに頼らない持続可能な循環型社会を区民とともに全力で作る”と記述されている。
- ・リサイクルは費用がかかるため、リユースを進める。

（6）第4章「エネルギーと環境」に関する意見

行政の計画・施策等との関わりについて

- ・練馬のこれからのエネルギー施策の方向性をどうするか明らかにしておくべき。

今後の取り組みについて

- ・エネルギー分科会では、化石資源を無駄なく使う、新（自然）エネルギーへの依存を高め

る、それらを次世代に効果的に伝えるの3点に絞り、そこから離れずプロジェクトを絞った。プロジェクトは委員が成功体験を持っていて、区民に広げられることと実現可能であることが選ばれてきた。今後たたき台を叩いてそぎ落とし、これらの委員が成功体験を持って、区民が楽しく取り組めることを軸に「プロジェクト」を多数選んでほしい。

現状と課題について

- ・基本的な現状分析が出来ており素晴らしいと思う。
- ・世界、日本、東京都、練馬区という各レベルでの課題と関係性について、住民一人の取り組みが世界の温暖化防止につながる実感ができるような感じがよい。

私たちのめざす取り組み方について

- ・地域に分散され、環境への負荷の少ないエネルギー施策を持つという方向性を目指すべき。

プロジェクト案について

- ・プロジェクト案と区への提案として、その内容と共に費用が出ているのは評価できる。
- ・投入費用によるエネルギーコストないし温室効果の削減に結びつけた解説ができればよい。
- ・「プロジェクト案と区への提案」は、概ね賛成である。
- ・ソーラーパネルの設置はぜひ進めて欲しい。小型のソーラーパネルを地域に点在させて、携帯電話やMDの充電などに若い人が使うとよい。
- ・ソーラークッカー作りは提案内容だと、かなり経費をかけているが、手じかな材料で作れるものをえらんでいくべきではないか。また、工作には、2時間強もかかり、区内イベントで気軽に作れるものではないので工夫が必要だと思う。
- ・ペットボトル温水器はペットボトルの回収を地域で行うとあるが、このためにわざわざペットボトルの飲料を買う人が出てくるのは疑問。クローバーをそれぞれの家庭で育てて屋上緑化にする提案のほうが良い。
- ・地産地消など練馬独自の取り組みとして、生ごみの取り組みと合わせて安全で新鮮な野菜の区内流通の仕組みを学校給食などとも連携して行われると良い。
- ・省エネモデルハウスの設置は、少し考え方を広げて、ビオトープの発想も取り入れ、広い意味での環境学習の拠点としたらよい。公園内などに企画し、企画段階から住民(子どもも、もちろん参加)が参画し、作る時でもできるところは、地域のお父さん、おかあさん、子どもたちが参加すれば、地域に根ざした施設になると思う。自然素材や廃材を利用したり、屋上に草をはやし、登ることもでき、子ども達の遊びの場にもなったら良いと思う。

区民からのその他の提案

- ・体験や実感の伴った環境学習が必要。
- ・省エネのための環境学習や啓発が大切。
- ・ISO14001を学校も取るということだが、小学生や中学生に計画を作るときから参画してもらい、内部点検も子供達自身が実施することで、効果も上がって本人も自覚し、大人にもいい影響をもたらせるのではないか。
- ・自然エネルギー・コージェネ・燃料電池などの効率の良い新しい技術の導入が検討され

るべき。

- ・高層住宅は熱気と二酸化炭素の逃げ場がなく、換気するにも電気が必要となるので、悪循環になる。屋上緑化といっても排出熱量が高ければ温暖化につながる可能性が高いので、どれほど効率がよいのか疑問。
- ・太陽光発電や風力発電の蓄電器が開発されたそうだが、一般家庭でも利用できるように更なる開発を望む。石神井川と白子川流域は親水緑地にできそうな気がする。特にマイクロ電力発電に利用できると思う。
- ・廃棄物によるエネルギー利用の実現には、問題が多くあり反対である。特に廃プラの利用は、新たな環境汚染に繋がり、また区の財政にも大きな負担となる。現在各地で行われ始めている廃プラのエネルギー利用は、エネルギー効率も悪く住宅地の練馬で取り入れられるような安定したシステム（爆発事故の可能性・汚染物質の拡散など）では無いように思う。また廃棄物をエネルギー利用の柱とする事は常に廃棄物を必要とするため、ごみの発生抑制を最も優先させるとした、練馬区のリサイクル推進条例にも反している。
- ・ノンフロン家電は、買い替えた物を処理するための電力や廃棄処分の手間等を考えた場合、本当に省エネといえるか再チェックする必要があると思う。修理すべきか買い替えるべきか、電気店が買う側の要望を聞いて相談に乗るとよい。電気店に限らず、商店同士がアイデアを出し合えば、省エネ意識向上につながるのではないか。その際、リサイクル可能な物は、リサイクル料の2度払いにならないような仕組みのチェックも必要かと思われる。
- ・エネルギー・温暖化の問題は、突き詰めていくと世界的な平和・人権・安全という問題に必ず繋がる。この問題の本質をしっかりと押さえて、エネルギー問題を考える必要がある。

(7) 第5章「くらしと有害物質」に関する意見

検討対象について

- ・自衛隊が練馬区にあり、又隣接しているので、生物化学兵器研究所など安心できない。区民にとっては不安面の方が問題だ。そしてそこにどのような危険物質があり、どのような研究がなされているのか、そして排出されているのか分からない。その点について、くらしと有害物質の検討課題に入れて欲しい。
- ・電磁波は、化学物質の危険性がようやく一般に知られてきたが、電磁波に関しては論議が遅れていると思う。
- ・有害物質の項目に電磁波を入れて欲しい。WHOが10年プロジェクトで調査中だが、特に携帯電話のアンテナは急増しており早急な対応が必要だと思う。

現状と課題について

- ・プラスチックは発明来50年ほどで、先史時代から使われている鉄などと違ってまだまだこれからの素材である。その一方で皆の生活にはなくてはならない素材である。問題になるのは、有害物質を使って作られたプラスチックも存在するということだが、カドミウムなど、もう使われていないものもある。現状と課題には、多くの物質名をあげているが、

プラスチックそのものが有害であるとの誤認を招きかねない表現もあった。

プロジェクトへの提案について

- ・私達は有害物質の問題を予防原則を基本として真剣に取り組む必要がある。プロジェクトの提案を進めて欲しい。
- ・有害な製品はお店にひきとってもらおうというのは賛成である。同時に、ペンキ、蛍光管、蓄電池など、大型店と一緒に引き取りのモデル実験をしてはどうか。
- ・まず国や都にダイオキシン等の規制値の強化について働きかけていく事が必要。
- ・有害物質の無害化やゼロリスク化ではなく、定量規制の流れを踏まえること、そこでの処理・処分における問題と物質そのものが有害であることの区別をし、そういった物質が使用されていることの便益と代替可能性およびコストの情報を合わせて提供していくことで、選択できる素養を身につけていける方向まで持っていければと思う。

その他

- ・西大泉は未だに井戸を使用している人が多いことに驚いた。
- ・問題の抽出とプロジェクトの提案は良くできていた。
- ・有害物質に関しては、使用禁止、廃棄禁止、製造・輸入禁止をし、処理管理報告をするべき。

(8) 第 6 章 「 環境学習 」 に関する意見

全体について

大人への環境教育の重要性

- ・大人への取り組みがまずはじめにあるべきだと思う。自然を少しでも回復する努力、環境を良くする姿勢は、大人の日々の生活の心がけの中で、同時に子供達の気持ちも育まれていくのではないかと。重点はやはり大人へ置くべきではないか。

例：小学校入学時の保護者向けの説明会で学用品はグリーンマークやエコ文具を購入して欲しいと呼びかける

- ・子供達の学習については考えられているが、大人に対しても自然について学ぶ機会を設けるべきである。学校では、子供達だけでなく、先生達にも教育が必要ではないか。これまでの学校教育のカリキュラムには生態系など環境問題やその基礎になる科目（生態学など）がなく、特に個人的に興味をもって勉強しなければ、生態系のことなど何も知らずに大人になった人が大半である。先生も含め子供達を指導する立場の人達に、生態系や生物多様性、外来種の問題などのような環境問題の基礎知識を学ぶ機会を何らかの形で設けるべきである。同様の理由で、環境を改変する仕事に携わっている事業者、工事を許可する行政の担当者に対しても同様の教育も欠かせない。一般区民に対する、鯉などの放流やペットの遺棄といった外来種の問題の啓発活動も重要である。したがって、P.105 にプロジェクト自然教育のプロジェクト案が出されているが、区内の生物相の調査とその結果の公刊と生態系や生物多様性、外来種問題などの公開学習会も検討するべきである。

- ・対象が学校や児童に傾いているのではとの印象を受ける。ターゲットを社会人一般に向けての方策ももう少し考えたい。

行政との関わりについて

- ・清掃業務に取り組む職員らは、業務の傍ら、環境問題の重要性を区民に理解してもらうために多岐にわたり取り組んでいる。今後の連携、相互の積極的な交流、参加をしていくとよい。清掃事務所の職員は以下のようなことを考えている。

清掃事務所の職員が取り組んでいる活動を一人でも多くの区民に知って欲しい

環境学習が区内でどのように行われているか実状を把握したい

環境学習に取り組んでいる人、グループがネットワークを組めないか

人・グループ間の情報交換システムを作りたい

区民環境行動方針策定委員の人達との意見交換の場を作って欲しい

- ・リサイクルセンターだけでなく清掃事業所の活動も示す。

プロジェクトについて

- ・事業所の環境推進について法人会、行政、区民が協働して一定規模の事業所に「環境アドバイザー」を専任できないか。既に事業所には「防災管理者」「交通安全管理者」が専任されていて、定期的に講習会を開き教育している。
- ・環境学習の必要性も認識され、環境学習に関わっていこうとする市民はいるが、教育現場と市民をつなぐ仕組みができていない。プロジェクトではNPOを作っているいろいろな人に関わってもらうとの提案だが、ひとつに結集していくことは、困難だと思う。そこで以下のことを提案する。

いろいろな人や団体が学校での環境学習のサポーターとして区にそれぞれが登録し、教育委員会も支援するかたちで、学校にはたらきかけたり、学校側が要請したりできるようにする。

区の担当者だけでなく、市民もコーディネイターとして加わり必要な人材（サポーター登録している人の得意分野は当然把握している）を学校に紹介していく。

区としてもサポーターの質の向上・育成のため、専門家を招いた研修を行う。

- ・区民が一目で各団体の活動状況と環境教育面でできることを簡略に分かりやすく、是非情報公開して欲しい。

参 考

たたき台説明会アンケート結果

設問 1 . 今回の説明会を何でお知りになりましたか。

	回答数
1 . 区報	5
2 . チラシ	0
3 . インターネット	1
4 . 知人から聞いた	6
5 . 検討委員である	7
6 . その他	1

設問 2 . 検討委員による説明はいかがでしたか。

	回答数
1 . よく理解できた	7
2 . ふつう	9
3 . あまり理解できなかった。	0
4 . その他	7

【「その他」欄の意見】

- ・ 検討委員会の各課題に対する取り組みが十分に伝わった
- ・ 資料ページの示しかたの工夫があると順序が変わっても資料が有効活用できた
- ・ みんなが協力できたらいいと思う
- ・ 説明内容等、委員の方々の「やる気」が良く伝わってくる説明会であったと思う。問題意識を持つにとどまらず、現状を変えていこうという姿勢には納得させられるものがあった
- ・ 少ない時間の中でとてもまとまった発表だった
- ・ ポイントをしぼって、具体的な行動、意気込みを示して欲しかった
- ・ 時間が少ない

設問 3 . 「たたき台」の中にあなたの実行したい取り組みや参加したいプロジェクトはありますか？

- ・ 特に参加したいということではないが、行政・事業者との意見交換や政策立案をどのように進めていくか関心がある
- ・ 農作業支援プロジェクト
- ・ ノーレジ袋ポイントカードのように生活で日常つかって実行できるものであったら参加できる
- ・ 生ごみのリサイクル 肥料・堆肥づくりに参加したい
- ・ 練馬区のまちづくりや清掃及びごみの分別に参加したい
- ・ 農作業支援プロジェクト
- ・ ごみと資源、エネルギーと環境
- ・ 白子川・石神井川プロジェクト 石神井地区プロジェクト

- ・ごみ・エネルギー・有害物質
- ・既に白子川整備に取り組んでいる
- ・まち環境
- ・エネルギー関係や省エネを実施したい

2 練馬区関係部署職員との意見交換会の概要

検討会議は、2004（平成16）年7月5～9日の間に、4回にわたって、先行して検討するプロジェクト案の具体化に関することを中心として、練馬区の関係部署の職員と意見交換を開催しました。

意見交換会における検討委員と区職員との意見交換の概要は以下のとおりです。

なお、区職員の参加は、検討会議の依頼による個人参加であり、その意見についても、職員の個人的な見解が含まれています。

第1回「循環と共生 資源循環や地球環境保全への貢献を中心に」

2004（平成16）年7月5日、練馬文化センター第2リハーサル室

出席委員数：18名

区側：環境清掃部管理課長、環境清掃部清掃リサイクル課長、環境清掃部練馬清掃事務所長、環境清掃部環境保全課長、環境清掃部環境保全課環境計画主査

逆引きごみ資源分別表（家庭ごみ資源分別辞典）の作成

検討委員の提起）区民への周知については、紙だと膨大になるのでHPがよいと考えている。

区職員の意見等）区HPへのリンクは一定条件下で可能。区HPとは別物という仕切りをして、例えば、「区民活動」ページの「区民環境行動方針」ページという傘の下に置き、リンクする方法がある。

リサイクル実施店名など個名を区民の責任で掲載することも可能だが、確実に取り扱っているか確認をしていくことが必要である。

更新については、正確を期すために区として協力する必要があるかと思うが、どのような頻度・ルートで行うかルールづくりが必要。また、実務面でも課題はある。

リサイクルとごみの区分については、どこまで詳細に表記するか検討が必要。区民からの問い合わせとの整合という実務面、提案内容を区民にどこまで求められるか、区民が実行できるか、などの検討を進める必要がある。

検討委員の提起) 区民と行政の意見交換・情報交換の場が必要。現業職員との意見交換は可能か。

区職員の意見等) 現場での課題はふれあい指導メンバーが対応できるが、逆引き辞典のあり方や協力関係を現業段階で判断するのは難しい。

地域リサイクルマップの作成・貼り出し

検討委員の提起) 掲載する店・集団回収団体の了解をとることや、集積所に了解してもらうヒントは。

区職員の意見等) 個別に了解を取るしかない。集積所は区で設置したものではないので、管理している人との話し合いになる。理解してくれる場所で行う。集団回収団体の代表者等は公表していない。店は自分で売ったものを回収している。自店で販売したものを以外を引き取ってもらうことを理解してもらうこと(店側の負担増を考慮)。コンビニからはPET回収をもっと頻繁に、という要望もある。店との対応を丁寧にして協力してもらっている。PET量が増えると行政負担も増える仕組み。リサイクルに金がかかることも考えていく必要がある。

検討委員の提起) 効果の検証へのヒントは。

区職員の意見等) 検証はなかなか難しい。

検討委員の意見) 辞典もマップもごみを出すことへの関心がない人が最大の課題だと思っている。マップを作って集めればよいということではないことがわかった。区に負担がかからないマップ作りをめざしたい。この話し合いを次へのステップにしたい。

陶磁器のリサイクルの試行

検討委員の提起) 問題があれば教えてほしい

区職員の意見等) 集め方、保管、運搬ルートをどうするか(継続性、安定性)。一般廃棄物は越境の問題がある。有価物となりうるのか。費用負担もある。また、再生したものをどう販売するか(ルート、安定性)。

組成調査(H15.10)では陶磁器は不燃ごみの2.5%あった。練馬区のごみ量に換算すると年間約900トンということになる。

陶磁器のリサイクルに区が施策として取り組むことは原状では難しい。

家具・家電簡易修理講習会の開催

区職員の意見等) 家電は、修理品の事故時の責任の問題から、リサイクルセンターでも取り組んでいない。区が実施することは困難だ、情報も持っていない。区民の責任で行うということであれば、可能というほかない。(会場、情報広場の利用などは自己責任で)行政がかかわる事は考えていない。

検討委員の意見) 修理する人の自己責任を前提に、ちょっとした知識を与える場にする。自己責任を植えつける場にできればと思っている。住民主体の活動にする。

ごみの発生抑制・ごみの分け方・出し方アイデアコンテストの実施とアイデア集の作成

区職員の意見等) 行政がからむと、コンテストの次に何をするかを考える。民間でや

るときも同じことだと思う。

検討委員の意見) 行政を使わないことも模索していくが、環境リサイクルフェア実行委員会参加などで PR は可能だと思う。鎌倉市でやった学校に参加させることも考えた。

区職員の意見等) 学校の参加には教育委員会との調整が必要である。

環境行動チェックシートを使用したエコライフデーの取り組み

検討委員の提起) 双方向型の楽しく積み上げていける体験の普及を考えている。今までの区の経験を教えてほしい。

区職員の意見等) 自分でチェックする仕組みの環境行動を考えてきた。環境カレンダーは行動に結びつかなかった。環境家計簿は取り組みやすいものではない。しかし、川口市のエコライフデーは市民主体で、(行政は限られたかわりをしていただけだが、) 多くの人に参加し、楽にできるものになっている。こういう取り組みなら進むと思う。どういふことをどうやるかが具体的にわかれば、区への対応の仕方が考えられる。

第2回「練馬の自然 - 自然・農業を中心に - 」

2004(平成16)年7月6日、練馬区職員研修所研修室

出席委員数: 25名

区側: 土木部建設課長、土木部公園緑地課長、産業経済部経済課長、環境清掃部環境保全課長、環境清掃部環境保全課環境監視係長、環境清掃部環境保全課環境計画主査

区民の意識改革を行うために自然環境に関する調査、区民の手による継続的な自然環境調査

検討委員の提起) 調査場所として公園などを使用することに問題はあるか。

区職員の意見等) 例えば土壌調査で大規模に掘る等とならなければ問題ないだろう。あとは、不審者でなく何かをしているということを示すルールを作ることが必要

川と水辺を楽しむプロジェクト

検討委員の提起) 川の中を歩くことについて

区職員の意見等) 川は本来は皆のもの、しかし、管理事務所に断ってカギを借りて入ってほしい。川に親しむことはわるいことではない。7月7日は川の日、その日あたりにイベントを考えることも可能かもしれない。

検討委員の提起) 池の水の浄化のため、つりを禁止すること、池浚いをしたい。単なるお願いではなく、住民のできるアイデアについて行政との意見交換はできないか。

区職員の意見等) もともとは湧水だが、開発で雨水溜まりになってしまっている。汚さない方向を探ること。清掃は深さも入り難しい。現状では池に近づいて親しむ、

池に触れるイベントでの啓発くらいか。

検討委員の提起) 雨水浸透を地域が提起すれば行政は動きえるか

区職員の意見等) 雨水浸透設備の区助成をしている(川の直近など設置が困難な場所もあるが)。地道に行くことが必要。

落ち葉等の堆肥化と自然環境保全の小さなアイデア募集

検討委員の提起) アイデア募集の方法や発表・普及について何かヒントは。

区職員の意見等) 区民自身で実行委員会を作ること1つの方法、環境リサイクルフェアへの参加を利用する方法も考えられる。

農作業支援と落ち葉の堆肥

検討委員の提起) 憩いの森の落ち葉を使用することに問題はあるか。

区職員の意見等) 憩いの森は緑化協力員の活動の場。落ち葉の需要は多い。緑化協力員活動で落ち葉利用しているとぶつかってしまう。調整が必要。アダプト(Adopt 養子縁組、アダプトともいう)制度を区で検討している。

散歩の道しるべマップづくり

検討委員の提起) マップ作りでのアドバイスを。テーマとしては、川辺の桜、庭先の花や緑はどうか。

区職員の意見等) 見た人がそれだけで行ってみることができるようにすることを検討したほうがよい。自然に関心を持たない人にも手にとってもらうには工夫が必要。最初から完璧なものをつくる、としないほうがよい。情報を集めるには集めたい側も発信する必要がある。

農家・JAと区民が協力した地域堆肥リサイクルシステムづくり

生ごみ堆肥化協議会の立ち上げ

区職員の意見等) その堆肥で作った野菜を地域で買い取る、などの仕組みも必要

区民が体験し、行動する核となる「練馬環境行動モデルハウス」設計・建築

検討委員の提起) 例えば、憩いの森につくれるか。

区職員の意見等) 民有地なので、地主、貸主との協議が必要。農家に作るとしてもコミュニケーションをどうとるか。維持管理のしかたも課題。

(堆肥化全般に関して)

区職員の意見等) 堆肥の最終消費者である農家の考えを知ること。農業の生産資材であり、よい堆肥は農家もほしい。地域単位で農家と区民との協力・信頼関係を築き上げていく方向がよいのでは(大きなシステムを最初から作るのは難しい)。作る作物や経験が絡み、一様ではない。

(行動を広めていくために)

検討委員の提起) 区内に広めていくために行政の力を借りられないか。区報に市民のページを作るとかコラムの連載とかできないか。

区職員の意見等)全区民向けの広報形態は簡単ではない。区報の特性から言うと、連載コラムよりも、ある程度の大きさで直接載せられる記事が向いている。市民のページのようなものはHPなら可能かもしれない。また、パブリシティという方法も有効な方法かもしれない。

第3日「練馬の市街地 - 市街地の環境問題を中心に - 」

2004(平成16)年7月8日、練馬区職員研修所研修室

出席委員数：14名

区側：都市整備部都市計画課長、土木部交通安全課長、産業経済部商工観光課長、環境清掃部環境保全課長

地域(地区)環境会議の立ち上げ

検討委員の提起)自分たちのまちを自分たちで良くしようというアイデアを集約する場所がないため考えた。地域住民が地域の環境問題を話し合っていく場を作った場合、区としての支援のあり方は、

区職員の意見等)まちづくり条例で、一定の条件の下で、地区まちづくり、テーマ型まちづくりを協議・提案する住民を支援する制度を設ける考えがある。

検討委員の提起)地域住民の話し合いの場の確保を区が支援することができないか(施設、使用料)。また、世田谷のまちづくりファンドのようなものは考えられるか。

区職員の意見等)行政がやったほうが良いかどうかは議論するとして、まちづくりセンターでの対応も含め、考えられる。

自転車適正利用支援チームの立ち上げ

検討委員の提起)検討中に、中村橋交通バリアフリー協議会が立ち上がった。その推移を見ながらプロジェクトを検討していきたい。

区職員の意見等)区の自転車対策の考え方は、次のとおりである。

- ・通勤利用対策に加え、買い物利用対策も進める必要がある。
- ・対策の3本柱： 自転車駐車場の整備 放置自転車撤去 自転車駐車場への誘導

中村橋交通バリアフリー協議会の検討事項は、次のとおりである。

- ・商店街への自転車進入禁止と自転車駐車場の確保

これは、商店街、利用者、区の協働である。

検討委員の提起)商店街が自分たちでやろうとしていることに意義がある。これは区民環境行動方針にもつながる。福祉の視点が入っていることが評価できる。

区職員の意見等)中村橋地区は、文化施設、障害者施設など公共施設が多い。商店街がバリアフリーに取り組んでいた。商店街に「自分たちでやる」という意識があった。

検討委員の提起)ソフト対策面でも充実が必要だ。例えば、ミニバス、パークアンドライド、自転車のマナー教室、放置自転車の再生利用の拡充など。

環境美化行動チーム

検討委員の提起) 環境美化にアダプトプログラムのようなものを考えられないか。(アダプトプログラム: Adopt program 一定の公共地域を市民と“養子縁組”し、市民が行う美化活動を行政が支援する制度。アダプトプログラムともいう。)

区職員の意見等) 自分の地域でいろいろな試行を行い、うまくいった活動を環境清掃推進連絡会を通じ、既に活動している町会等への普及を図ったり調整したりすることで広めていくことも考えられる。

コミュニティービジネスとしての可能性もあるのではないか。

散歩の道しるべマップづくり

検討委員の提起) マップのテーマとしてお奨めのアイデアはある? コンセプトは?、川沿いの桜マップ、庭先の緑マップなどを考えている。

区職員の意見等) 「ねりコレ」は応募数も増え、商店からの評判も良い。「るるぶ」とともに他区市からも注目されている。問題点を参考までにお話しすると字が小さいこと。

検討委員の提起) ウォーキンググループで「ねりコレ」めぐりの計画がある。

検討委員の提起) 練馬の散歩道マップを作ったときの苦労を教えてください。

区職員の意見等) 10年以上前、都市計画課で作った。当時は観光の視点はない。商工観光課ができたとき引き継ぎ、観光の面で表彰を受けた。ボランティア案内との連携で事業化できればおもしろいが、自然系が多いので、工夫も必要

区民・商店・区・大学が協力してつくる「人と環境にやさしい魅力ある商店街づくり」

検討委員の提起) 商店・区民・大学・行政が一体となって、商店街活性化、ポイ捨て防止等に取り組む際の留意点は?

区職員の意見等) 商店街への支援メニューはいろいろ用意しているが商店経営者の意識も様々でなかなかうまくいかない。

検討委員の提起) 一国一城の主が集まっているところに区民や学生がかかわっていく難しさがある。

区職員の意見等) コミュニティービジネスとしてかかわっていくこともできるかもしれない。産・学・地域・行政でコミュニティービジネスを起こす際の支援を考えている。

検討委員の提起) 商店街活性化の提案に際し、区も調整などで協力してもらえないか。

区職員の意見等) 総花的でなくポイントを絞った提案であれば、庁内調整もやりやすく、商店街とも話しやすい。

第4日「環境学習 区民の環境意識の向上と行動への動機付け」

2004(平成16)年7月9日、区役所本庁舎20階交流会場

出席委員数: 18名

区側: 学校教育部指導室指導主事、生涯学習部生涯学習課長、練馬区保健所生活衛生課長・環境衛生監視担当、環境清掃部管理課長、環境清

掃部石神井清掃事務所長、環境清掃部環境保全課環境教育啓発主査、
環境清掃部環境保全課公害規制係長

「環境教育支援プロジェクト」づくり

検討委員の提起)区立学校の環境教育について、PTA や地域での取り組みをしたいなどのプログラムを学校に提案するときは、各校に直接持ち込むのか、教育委員会に声をかけるほうが良いのかを知りたい。

区職員の意見等)小中学校の教育は義務教育のため、学校ごとに作成された教育計画に基づいている。計画は前年度に作るので、次年度の計画に入れられるか、というアプローチを願いたい。責任者は校長、窓口は教頭になる。環境という言葉でイメージされる範囲は広いので、範囲、内容など、具体的につめて提案するのが良い。開かれた学校を作るには区民の力が必要。

教科の中で取り込めるものは教科の授業で取り組めるが、学習指導要領の範囲で、となる(例えば、東電、東ガスのプログラムは技術・家庭で使用)。道徳や特別活動は内容がほぼ決まっている。そこで、環境については「総合的な学習の時間」で取り上げることが多い。

総合的な学習の時間は自ら課題を見つけて解決していくことが大切なので、子どもの興味関心に応じて、様々な環境課題に取り組む可能性があるが、最初から環境学習をやりましょうとはならない。リサイクル活動や環境 ISO に取り組んでいる学校もあるが、教科学習ではないので、環境学習に興味がない子に教えるというのはそぐわない、という面がある。

区民の活動は前向きに捉えているが、プログラムは学校ごとの長期的視点で実施していくもので、教育委員会の指示で一斉に動くということではない。

検討委員の提起)協働を進めるためには区の支援が必要だ。区民が提案に行くことを、教育委員会から各学校に通知しておいてほしい。

区職員の意見等)行動を起こそうというとき、その学校とのつながりが何もないと敷居が高いかもしれない。実際に活動している学校に行って、私も参加させてくださいなら抵抗がないが、いきなり、これはおかしい全部変えろでは抵抗がある。ふだんから地域に根ざしてエコ活動をするなかで学校と連携していくのが、よいと思う。教育委員会が通知すれば動くというものではない。

検討委員の提起)総合的な学習の時間への疑問がある。興味がないから環境学習をやらない、でよいのか。

区職員の意見等)教科学習との関連で実施する。教科学習では大人の作ったカリキュラムで時間や時期まで決まっている。そのなかで、子どもたちが興味・関心を持ったことなどについて校長がプログラムを作る。特色ある学校づくりを進めるなかで、ほとんどの学校で環境に配慮した活動を行っている。教育委員会が旗を振るのではなく、学校が地域に根ざしたプログラムを作る。

検討委員の提起)民・産・官一体となった取り組みへの区の協力について。区民がプログラムや協力者名簿を作ったとき教育委員会がみてくれるとか、先生を紹介してくれるなどの支援は可能か。

区職員の意見等)具体的な魅力的なプログラムを持ち、地域で実績を作ったものは支援が可能。

検討委員の提起)環境教育で重要なことのひとつに食育の問題があると思う。食育についての今の区の捉え方は？

区職員の意見等)食品の安全性の部分については住民とのリスクコミュニケーションをどう作るか。安全に絶対はないという前提の下、取り組みを始めようとしている。食育自体についても、農政で検討を始めていると聞く。農家にとって土は命、生ごみリサイクル、地産地消などをどう動かしていくかも大事。

環境行動チェックシートを使ったエコライフデーの取り組み

検討委員の提起)単なるパンフレットでなく、行動につなげるための双方向型のもの(川口のエコライフデーのようなもの)を考えている。まだ、企画はないが、大人も子どもも入れる、集計などでも区民参加できる、などを考えている。一緒にやってもらえるか。

区職員の意見等)いいことをやっていくことに問題はない。どんなことをするか企画がある程度分かればバックアップのことも検討できるのではないか。

区民が体験し、行動する核となる「練馬環境行動モデルハウス」設計・建築

検討委員の提起)区施設としてのリサイクルセンターはあるが、もっと小規模で省エネ、新エネが体験できる施設(エコハウス)を考えている。

遊タスクールの強化や講習会・勉強会の拡大に対応できる組織づくりとプログラム作成

検討委員の提起)ボランティアなども含めた人材育成、不要物の受け入れなどごみ減量やリサイクルにも貢献できる環境センター、学習・教育の指導者の育成などを視野に入れている。

検討委員の提起)ここでエコハウスや環境センターの考え方を出したが、区のリサイクルセンターがどうなっていくのか、構想、立ち上げ時期、区民が関与できるか、など。

区職員の意見等)長期計画で4館構想なので、あと2館作る。関町、春日町は開設懇談会での話し合いが基になった。次もそうなると思う。区としては決めていない。ところで、ごみを持ち込める環境センターとは、どういうものを考えているのか？

検討委員の提起)リサイクル協同組合などにも入ってもらい、ごみになる前に何とかする施設があればという理想をもっている。難しいのは確か。区では難しいが、民間ならできそう、ということがあればアドバイスがほしい。

区職員の意見等)リサイクルセンターでの家具の実情を見ると、出し手より貰い手が少ない。小物は良くはける。粗大ごみで出たもので程度のよいものは、有料頒布できないので環境リサイクルフェアに出している。年間通じてできないと滞貨してしまう。

検討委員の提起)リサイクルシステムを作ることができるか、また、情報伝達のマッチングシステムを作ることできるかと思う。

検討委員の提起)リサイクルセンターが立ち上がって、あとから入っていくよりも、最初からそういう意見を言えるような公募システムを作ってもらおうよう希望します。

逆引きごみ資源分別表（家庭ごみ資源分別辞典）の作成

検討委員の提起）環境教育的な使い方も模索している。

ごみの発生抑制・ごみの分け方・出し方アイデアコンテストの実施とアイデア集の作成

検討委員の提起）鎌倉市で小中学生に夏休みの宿題で行ったものがある。学校も対象ではあるが、大人も含めた、継続的なコンテストを考えている。

家具・家電簡易修理講習会の開催

検討委員の提起）粗大ごみにださないための、自分で修理するための講習会の開催やその講師養成のプログラムづくり

検討委員が参加し、進める練馬環境会議による有害物質学習会

検討委員の提起）有害物をはじめとして環境をめぐる問題について広く知ってもらい、区民に環境への意識を高めてもらうための活動を考えている。

（環境学習全般に対して）

検討委員の提起）環境行動の動機付けとしての、例えば区長表彰の可能性について

区職員の意見等）環境関係の事業では、環境作文コンクールがある。子どもたちが環境を考えるきっかけとして有効。区内在住の小中学生を対象としている。区内の学校を通じた応募が多い。

環境関係のいろいろな町会組織を一本化した環境推進連絡会ができた。ここでも環境美化推進について区長感謝状を出す方向にある。問題点は、ごみ・リサイクルなどの環境団体に入っていない人はこぼれてしまうこと。統一的な環境美化デーを作れないか、考えている。

検討委員の提起）町会がすべて環境やごみについて知ることができるような組織ができるのなら、そこへのアプローチも可能になるかもしれない。ただ、町会の組織率もあまりよくないと聞いているし、町会とは別に活動していると入っていきにくい。学校を基礎にしたコミュニティづくりを考えている。若い人が町会に入らない。共働きの親はPTA活動ができない。この両方をつなぐ手立てを模索している。

区職員の意見等）11月、学校ではクリーン運動をやる。区でもこれに町会を巻き込みたい。

検討委員の提起）環境というのはコミュニティにとって入りやすいテーマだと思う。

区職員の意見等）こどもエコクラブの質問があった。小中学生対象で大人（サポーター）1人、子ども2人以上で結成できる。サポーターが不足している。

検討委員の提起）そういう切り口も今後検討材料にしたい。